

津波に対する避難 ところで、日本海沿岸の市町村では、地震後に津波の心配があった。震源地に近い離島栗島浦村では、すでに述べた（第2編第1章第3節および第4節<38頁, 41頁>参照）ように島全体が約1.5mも隆起したため



津波の来襲を見て、逃げおくれた人々は、とりあえず、屋根広いに避難した（新潟市万代島付近）。

大きく水がひいたかたちとなり、津波の来襲は必至と判断された。直ちに消防団員によって半鐘が打たれ、消防団員の誘導によって住民は高台にある竹林に避難した。そのころ対岸の山北村や村上市では、ほんとうに津波が押し寄せていた。山北村の沿岸部では、いち早く海面の異常に気付いた者が「津波だ」と叫び、住民は我先きに裏山等の高地に避難した。また村上市は、揺れの激しさからすぐ地域的には津波の来襲ありと考え、バイク等により沿岸部へ職員を派遣したが、住民はそのときもう海面のふくれ上がりを見て津波に気づき、高台へ避難をはじめた。これら震源地に近いところでは、最高波の来襲時刻もはやく、住民自身のとっさの判断に基づく行動と消防団員や部落役員などの機敏な誘導により、とりあえずの避難が短時間のうちに済まされた。

津波予報は午後1時15分に、「6区に津波が予想される」むね気象庁から発表された。本県沿岸は、津波予報区の6区に含まれる。この予報は、関係気象官署や日本放送協会などの伝達中継機関へ伝達され、午後1時25分すぎには、NHKテレビ、ラジオの電波を通じてこれが地震情報とともに全国へ流れた。沿岸市町村ではこれによって津波警報をキャッチしたものが多く（表IV-2.1.1）。というのは、本県では地震後まもなく新潟市を中心として通信が途絶し、気象業務法に定める「地方気象台から日本電信電話公社または県警察を通じての市町村への伝達ルート」が必ずしも活用できなかったからである。新潟地方気象台は、午後1時33分に気象庁から無線電で連絡を受けたが、新潟市内の各伝達中継機関への伝達は徒歩連絡によらざるを得なかった。

新潟地方気象台の職員が携帯無線機を持って県の地震対策本部へ駆けつけたのが午後2時15分ころで、市から派遣された県本部詰めの連絡員により、直ちにこの警報は新潟市災害対策本部へもたらされた（このころ県庁と市役所間の電話連絡は可能となっていた）。新潟市は午後2時30

分津波に伴う避難の指示を行ない、市内へ広報車をくり出して「高台または3階以上の建て物へ避難するよう」周知につとめた。そのころすでに新潟市内では、噴出した地下水に追われ、あるいはトランジスターラジオで津波警報の発令を知った避難者があふれ、警察官や消防職員の臨機の判断により誘導されていたが、ここに避難者の流れには一定の方向が与えられたことになる。さきわい津波はすべてのものを押し流すというほどの大きなものでなかったから、津波による直接の犠牲者は少なかったが、浸水地区にとりのこされた被災者はその後舟などによって救出された。

県内のその他の市町村では、一部に避難を行なったところもあるが、地形上さしたる措置を必要としなかったところが多い。沿岸各市町村が津波警報を何で知り、どのように措置したかはおむね表IV-2.1.1に示すとおりである。

表IV-2.1.1 津波予報と避難等の措置

市町村名	津波予報の覚知		市町村対応措置	住民の避難状況
	発令関係	解除関係		
栗島浦村	14:00 (ラジオ)	不詳 (ラジオ)	津波の危険を予測し有線放送で住民に注意	高台に避難
山北村	受信せず	14:30 (ラジオ)	対応措置せず	一部、自主的に避難
村上市	不詳 (消防)	17:50 (ラジオ)	警報の伝達避難の指示	指定場所へ避難
神林村	14:00 (ラジオ)	16:30 (ラジオ) 17:30 (警察)	受信前に津波の危険を周知	避難実施
中条町	13:20 (ラジオ)	受信不明	対応措置せず	避難せず
築地村	不詳 (ラジオ)	17:40 (ラジオ)	消防団に警戒を指示	一部、自主的に避難
紫雲寺町	14:00 (ラジオ) 15:30 (警察)	17:30 (ラジオ) 20:00 (警察)	消防団に警戒を指示 避難指示	海岸地域のみ避難
聖籠村	14:00 (ラジオ) 14:50 (警察)	18:30 (警察)	消防車で住民に周知	海岸地域のみ避難
新潟市	14:15 (県)	受信不明	避難指示 広報車で住民に周知	危険地域のみ避難
巻町	14:00 (ラジオ)	受信せず	対応措置せず	避難せず
岩室村	14:00 (ラジオ)	受信不明	消防車で住民に周知 避難指示	海岸地域のみ避難
寺泊町	14:50 (警察)	17:56 (警察)	消防車で住民に周知 避難指示	
出雲崎町	13:20 (ラジオ) 13:30 (警察)	16:52 (警察)	伝令により各地区に周知	待機のみ
西山町	14:00 (ラジオ)	不詳 (ラジオ)	受信前に警戒指示	漁船の引き上げのみ

市町名村	津波予報の覚知		市町村対応措置	住民の避難状況
	発令関係	解除関係		
柏崎市	13:20 (警察) 14:15 (電話局)	18:00 (ラジオ)	消防団に警戒指示 消防車で住民に周知	一部地域避難
柿崎町	14:00 (ラジオ) 14:20 (警察)	17:40 (警察)	消防団に警戒指示 広報車で住民に周知	漁船の引き上げのみ
大潟町	14:00 (ラジオ)	16:00 (ラジオ)	消防団に警戒指示 消防車で住民に周知	漁船の引き上げのみ
直江津市	14:00 (ラジオ)	18:30 (ラジオ)	消防団に警戒指示 広報車で住民に周知	避難なし
名立町	13:35 (警察)	17:30 (警察)	広報車で住民に周知	避難なし
能生町	13:33 (警察) 14:00 (ラジオ)	18:10 (警察)	広報車で住民に周知	避難なし
糸魚川市	13:10 (ラジオ) 13:15 (警察)	17:30 (テレビ)	広報車で住民に周知	避難なし
青海町	13:30 (テレビ)	18:00 (テレビ)	消防車で住民に周知	避難なし
両津市	13:30 (ラジオ)	16:30 (ラジオ)	緊急避難命令を発し 広報車で周知	高台へ避難
相川町	13:25 (測候所)	17:00 (測候所)	避難指示広報車、有線放送 で住民に周知	避難なし
佐和田町	14:20 (ラジオ)	17:30 (ラジオ)	消防団に警戒を指示 広報車で住民に周知	避難なし
畑野町	14:00 (警察)	不詳 (警察)	消防団に警戒を指示 広報車で住民に周知	避難なし
真野町	14:10 (ラジオ)	18:20 (ラジオ)	消防車で住民に周知	避難なし
小木町	14:10 (ラジオ)	17:50 (警察)	避難指示 有線放送で住民に周知	避難実施
羽茂町	13:30 (警察)	受信せず	消防団に警戒を指示 有線放送で住民に伝達	避難なし
赤泊町	受信せず	不詳 (ラジオ)	予測により住民に注意を 呼びかける	一部地域避難

注 時刻は各市町村の報告によるものであるが、とくに発令関係については混乱のためやや不正確なものも含まれる。

火災に伴う避難 新潟市では、さらに火災に伴う避難をしなければならない人たちがあった。同市松島通の火災で焼け出されたある主婦は、地震とほとんど同時に赤ちゃんをかかえて表へこころげ出た。その目の前で大地がゆがみ、土煙りが上がった。石油が流れてきた。「火事だ」「逃げろ！」彼女はみんなのあとについて保育園へ走った。1) 家はもう火につつまれていた。その後、津波がくるというので高台へ追われ、避難場所を変えながら翌日12キロの道のりを歩いてようやく知人宅へたどり着いた。

一方、山ノ下の昭和石油新潟製油所の火災現場へは、本部の指令をまといまもなく副隊長指揮のもとに直ちに出勤した警察機動隊員約60人が午後1時25分ころ到着し、爆発事故等があれば

1) 主婦 中川フエ:新潟日報6月21日11面;「新潟地震の記録」(昭和39年8月,新潟日报社),106頁